

LPガスCP情報(2017年7月積み)

1. 7月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **345** 円 (前月比-40円)

ブタン **365** 円 (前月比-25円)

① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、原油・石油製品市況が急落するなか、LPガス需要はピークを過ぎ需給緩和感が強まり市況は軟化した。米モンベルビュースポット価格が高値のため米国玉のキャンセルが相次いだ。中国も暑さで需要は減退気味なのに対し国内製油所からの供給が潤沢、石化需要も対ナフサで競争力がなく低迷している。CP先物は続落し、第4週は需給緩和感が強く350円を割り込んだ。極東CFR市況は第4週末でプロパン360円、ブタン380円どころへ続落、フレートも軟化しディスカウント市況となった。

一方、米モンベルビュープロパンスポット価格(FOB:以下MB)は、全米プロパン在庫が8週連続の増加、輸出はキャンセルが続き2015年6月以来の水準に落ち込み、原油市況の急落を受けて下旬には295円まで下げた。月間平均は306円/トン、前月比27円の下落。

ナフサは原油市況に連れ安、月間平均は413円、前月比34円の続落。バンカーオイルも原油市況に追随し、月間平均で293円どころ、前月比13円の続落。

7月CPは前年同月比プロパン50円、ブタン55円高。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算では、前月に比べプロパン1ポイント下落、ブタン3ポイント上昇、前年同月比ではプロパン15ポイント、ブタン17ポイントそれぞれ高い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	26	27	26	24	26
CP先物指標:P	370	360	360	345	359
CP先物指標:B	375	370	370	365	370

② 原油市況等

WTIは5月48.36円でスタート、サウジ等7カ国がカタルと断交し地政学上リスクから上げる局面もあったが、OPEC加盟の減産免除国であるナイジェリア、リビアの増産により協調減産の効果が懸念が高まる一方、北米のリグ稼働数は23週連続で増加し(23日現在:941基:ガス・石油計)2015年4月の水準にまで回復、米国の原油生産量は930万b/dまで増加し市況は急落した。EIAは2018年米国内生産量を1,000万b/dまで予想を引き上げ、全米原油在庫は5億1千万バレルの高水準を維持、ガソリン需要期にもかかわらず製品在庫も高いままでWTIに次いでブレント原油も下旬に弱気相場(直近高値から20%以上下落)入りした。

一方、NYMEXのWTI総取組高は株高で資金が流出、一時212万枚まで減少、大口投機玉の買越残高は6月20日時点で32.9万枚とピークの2月からは22万枚減少した。大口投機玉の買建売は62.9万枚、売建玉は30万枚どころで推移、買建玉が手仕舞われ、新規の売建玉が増加している。

○6月積みアラビアン・ライト(6月1~28日まで)は45.5円(前月比-4.65円)

熱量等価AL100% プロパン373.05円/トン ブタン367.94円/トン

AL比 プロパン92.48% ブタン99.20%

*上記アラビアン・ライトはEIN推計値、確定値は後日、Webサイトでご確認ください。

2. 2017年7月LPガス仕切(CPコスト変動分)への影響

適用為替	TTS	P円建CP	B円建CP	MB合成P	P前月比	B前月比	合成P前月比
①20日締め	111.83	40,800	42,200	41,400	-2,700	-1,900	
②末日締め	111.87	40,800	42,200	42,400	-2,800	-2,000	-3,000

*TTS平均について、①が5月21日~6月20日、②6月1~29日まで。①、②いずれも前月・当月CP50%案分。MB合成の比率は①がCP75%、MB25%、②がCP70%、MB30%で算定。なお、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定もなされるため、仕切の詳細はWebサイトを参照。また、2017年7月仕切から2社がプロパン仕切フォーミュラ変更を提案、MBとCPの合成FOBに変更されています。これで大手4社が足並みを揃えました。